



学校だより

広島市立安北小学校

広島市安佐南区高取北二丁目30-1

号外

平成26年度全国学力・学習状況調査 概要

今年度の全国学力・学習状況調査は、4月22日(火)に6年生を対象に行われました。

A問題は、主として「知識」に関する問題、B問題は主として「活用」に関する問題です。本校の平均正答率は以下のとおりでした。

国語						算数					
A問題			B問題			A問題			B問題		
国	県	学校									
72.9	75.9	76.4	55.4	58.3	57.7	78.1	80.7	78.3	58.2	60.1	59.9

【国語】

A 主として「知識」

平均正答率は76.4%で概ね学力が定着していると考えられます。その中でも、「言語についての知識・理解・技能」は平均正答率が全国平均を上回りました。漢字の読み書きは平均85.6%以上の正答率で力を発揮していました。中学年までの帯タイムや、家庭学習での漢字練習の成果といえます。しかし、故事成語の使い方として適切なものを選ぶ問題や、情景描写の効果を読み取る問題は、平均を上回っているものの、よくわかっていない児童がいました。

このような課題を受けて、読解ワーク集を活用して読み取りの練習をしています。その際、繰り返し音読して文章をイメージ化し、中心となる文章、理由、具体例をしっかりと把握した読みができるようにしています。新聞記事を配布し、音読して感想を書く学習にも取り組んでいます。

B 主として「活用」

今回の問題は情報量が多く、大意をとらえ、整理して内容を読み取る力が要求されました。時間が足りないと感じた児童が多かったようです。しかし、読む能力は、県平均全国平均をかなり上回り、良い結果となりました。一方で、立場を明確にして質問や意見かを書くことや、2つの詩を比べて読み自分の考えを書くなど、記述式の正答率が44%でした。

児童は、自分の考えが明確になるように書く能力がついていないことがわかりました。そのためにさまざまなテーマを与え、三段落に構成して書くこと「①結論(自分の意見)先行で書く②理由を書き、具体例を示す。③まとめの意見を書く」の指導をします。また、相手の主張の要点は何かを考えながら聞くことを常に意識させる指導をします。その際にキーワードやキーセンテンスをメモしたり、文章であればラインを引いたりしながら聞くことを習慣化させます。また引用して感想を言う練習を行うことで表現力を育成しています。

【算数】

A 主として「知識」

平均正答率は78.3%で全国平均を上回る良い結果で、概ね学力が定着していると考えられます。

「数と計算」「量と測定」「図形」領域の基本的な知識は身に付けており、特に、分数を含む四則計算では力を発揮していました。しかし、割合の考え方が不得手な児童がおり、1より小さい場合でも基準量×割合になる問題や、単位量当たりの大きさを求める問題での正答率が少し低くなりました。また、算数用語を使って説明することに課題があり、平行四辺形の作図に用いられる特徴を選ぶ問題の正答率は52.8%でした。

この課題を解決するために数直線を活用して、指定された数の範囲をとらえる活動を取り入れています。また、数の範囲を数直線で連続的にとらえる活動を多く持つようし、割合の考え方を活用する具体的な場面での指導を多く取り入れています。算数的な定義や用語について既習事項を復習し、図形の定義について言葉と図を結びつけて説明することを繰り返し行っています。

B 主として「活用」

平均正答率は、59.9%で、全国平均を上回る結果でした。特に積に同じ数が並ぶものを選ぶ問題や倍数を考える問題では、ほぼ90%の理解通過率でした。しかし量と測定の領域の問題では、示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、理由を数と言葉を用いて説明する力が不足している児童が51.2%いました。小数倍の長さを説明する記述問題では30%台の通過率でした。

算数B全体を通して、自分の考えを、筋道を立てて言葉で説明することが難しかったようです。そのため、授業では比較する対象を明確にし、文章に何が不足しているかを考えさせ、図や言葉、数字を用いて付け加える活動に取り組みます。また、各単元において、聞かれている課題に応じて、論理的に説明ができるように、筋道を立てて説明させる活動を仕組んでいます。

今回のような応用問題に対する苦手意識が強いため、問題集等を活用し、応用問題の読解力が身に付くよう、繰り返し練習する学習を進めていきたいと思えます。

【質問紙】

質問紙は、学習意欲や生活の諸側面に関する質問に答えるものです。

“学校へ行くのは楽しい”と感じている児童は91.3% [全国86.6%]，“将来の夢を持っている”児童は90.5% [全国86.7%]，また“地域行事に参加している”児童は64.3% [全国68.6%] でした。充実した学校生活を送りながら地域でも楽しく活動している様子がうかがえます。“自分に良いところがある”と思う児童は73.8% [全国76.1%] でした。

国語科では、発表の時話の組み立てを工夫している児童が52.4%であることがわかりました。学校では、感想や意見を述べ合う機会を多く設け、自分の思いをわかりやすく伝える術を習熟させる取り組みをしています。また、家庭では、新聞を読むことやテレビのニュースを話題にするなど言葉に触れあう機会をたくさん持ち、その中から自分の意見を持ち表現するよう、懇談会・通信等で呼びかけています。「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか。」の質問に対し、“している”と答えた児童は52.8% [全国61.4%] でした。これを踏まえて、資料や調べたことに基づいて考えを伝えたり、文章に書いたりする機会を積極的に設けています。

算数科では「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えているか。」という質問に対し、“考えている”と答えた児童が68.2% [全国66.3%] でした。そのため、授業の中で、生活に根差した問題を取り上げるなど学んだことが活用できるような機会を設けています。また、考え方を交流していくことを通して、算数の楽しさ面白さを実感させる活動を行っています。